

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の多様な進路希望に適切に対応するために設けたコース制の充実や職業教育導入のための方策を検討する。	→ 「コース制についての満足度調査等の独自アンケート調査の実施状況」「選択したコースと卒業後の進路の対応状況」「新入生オリエンテーションでの説明時間数やコース選択前オリエンテーションへの出席者数」「コース制についての周知実績(独自パンフレット作成の有無等)」「職業教育関連科目の有無・科目数」	B	A	A	A	A
2. 少人数教育のための演習科目を充実させる方策を検討する。	→ 「演習科目についての満足度調査項目を含むアンケート調査の実施状況」「選択必修ないし選択制の演習科目(研究演習・人文演習等)の履修率」「演習科目の効果的な再配置と新設の検討状況」「1年次配当の演習科目(基礎演習)における初年時教育の内容」「学内や他大学の演習クラスとの合同による研究演習の実施数」「新入生オリエンテーションでの説明時間数やゼミ選択前のゼミ説明会への出席者数」「演習科目についての周知実績(独自パンフレット作成の有無等)」	B	A	A	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理念・目的は設定されている。目標1が理念目標という本項の趣旨とそぐわないことは、この間指摘されていることではあるが、コース制の充実、キャリアガイダンスや職業教育の導入といった目標は、2012年度から実施にうつされた新カリキュラムにおけるコース制の再編やスタートアップ演習の新設などによって実現されている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か コース制解説のwebサイトの充実や、独自パンフレット作成により、コース制の趣旨の周知が進んでいる。全新生が受講するスタートアップ演習の中に、「法学・政治学学習ガイドブック」(本学部独自で作成。2013年度より活用開始)を用いたガイダンスや、法職説明会、キャリアガイダンスなどを盛り込むことが可能となり、新生ガイダンス時に行ってきたものに比して、時間的にも、内容的にも格段の充実がはかられた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か FD活動検討委員会および拡大カリキュラム委員会において、スタートアップ演習の成果の検証といっそうの充実に向けた検討が取り組まれている。とりわけ2013年度は大学院生のティーチングアシスタント(TA)を配置してきたスタートアップ演習に、学部学生のラーニングアシスタント(LA)を配置することとし、履修相談やファシリテーションの役割を担わせることで、ピアエデュケーションを実質化し、いっそうの充実化をはかっていく。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理念・目標は設定され、公開され、定期的に見直す仕組みが制度化されている。目標2が目標・理念という本項の趣旨にそぐわないことは、この間指摘されていることではあるが、少人数教育のための演習科目の充実という目標は、2012年度から実施にうつされた新カリキュラムにおける法学・政治学基本演習、模擬裁判演習、法政教養演習、コース導入演習、法政文化研究演習などの新設により実現されている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新カリキュラムによって充実がはかられた演習科目については、33科目延べ2015人が履修登録し、1910人が単位取得するに至っている(単位取得率94.8%)。またカリキュラム改訂によって新設された12科目の履修登録者は、2232名に登り、単位所得者は1958名となった(単位取得率87.7%)。いずれも低学年次の入門・導入科目の充実を目指した改定であり、十分な成果が上がりつつあると考えられる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か FD活動検討委員会と拡大カリキュラム委員会において、新カリキュラムについての検証といっそうの充実に向けた検討が取り組まれている。とりわけ、新設の司法特修コースが2014年度以降に本格的に稼働するため、司法研究科(ロースクール)との連携強化と司法特修コースの教育に対する協力体制の確立が求められている。法学部と司法研究科の執行部間の連絡協議会が設置されており、そのいっそうの充実が求められる。</p> <p>その他</p>	☆
備考			☆